

再評価結果（平成20年度事業継続箇所）

担当課：道路局 国道・防災課
 担当課長名：下保修

事業名	一般国道4号氏家矢板バイパス		事業区分	一般国道	事業主体	国土交通省 関東地方整備局
起終点	自：栃木県さくら市上阿久津 至：栃木県矢板市片岡				延長	13.9km
事業概要	一般国道4号は、日本橋を起点とし、宇都宮、福島、仙台、盛岡を経て青森市に至る延長約850kmの主要幹線道路である。さくら市・矢板市周辺の国道4号は、市街地中心部を通り、交通量の増加等により、慢性的な渋滞が生じている。氏家矢板バイパスは、広域幹線道路網の強化、県北地域への交通基盤の強化、開発計画等地域振興の支援を目的とした延長13.9kmの現道拡幅及びバイパス事業である。					
S58年度事業化	S58年度都市計画決定	S60年度用地着手	H元年度工事着手			
全体事業費	360億円		事業進捗率	88%	供用済延長	9.2km
計画交通量	35,500~48,700台/日					
費用対効果分析結果	B/C (事業全体) 2.7 (既供用区間を除く区間) 2.1 (残事業) 20.0	総費用 (残事業)/(事業全体) 70/513億円 (事業費：4.5/447億円) (維持管理費：65/65億円)	総便益 (残事業)/(事業全体) 1,398/1,398億円 (走行時間短縮便益：1,360/1,360億円) (走行経費減少便益：12/12億円) (交通事故減少便益：26/26億円)	基準年 平成19年		
感度分析の結果	【事業全体】交通量：B/C=2.5~3.0(交通量±10%) 事業費：B/C=2.5~3.0(事業費±10%) 事業期間：B/C=2.6~2.8(事業期間±20%) 割引率：B/C=2.2~3.5(割引率±1%) 【残事業】交通量：B/C=18.0~22.0(交通量±10%) 事業費：B/C=19.9~20.2(事業費±10%) 事業期間：B/C=20.0~20.0(事業期間±20%) 割引率：B/C=19.8~20.2(割引率±1%)					
事業の効果等	・当該路線が隣接した日常活動圏中心都市間を最短時間で連絡する路線を構成する、他7項目に該当					
関係する地方公共団体等の意見	旧3市4町：旧高根沢町以北の一般国道4号の整備促進を要望					
事業採択時より再評価実施時までの周辺環境変化等	沿線の土地区画整理事業が伸展し、沿道に商業施設が立地するなど、当該道路における交通需要が増大している。					
事業の進捗状況、残事業の内容等	平成18年度までに氏家駅西地区の4車線化(L=1.1km)、上阿久津バイパスの全線4車線(L=3.5km)が開通した。現在、残る矢板バイパスの整備及び4車線化を進めており、用地は96%取得済みである。					
事業の進捗が順調でない理由、今後の事業の見通し等	現在、交通需要の多い氏家駅西地区、上阿久津BPから順次整備を進めており、当初の予定通り進められている。残る矢板バイパス及び4車線化整備について、平成20年代前半までに整備を進める。					
施設の構造や工法の変更等	コスト縮減に資する調達方法の採用や新技術の積極的活用など、コスト縮減に努めるとともに工期短縮を図り、併せて整備効果の早期実現を図る。					
対応方針	事業継続					
対応方針決定の理由	以上の状況を勘案すれば、当初から事業の必要性、重要性は変わらないと考えられる。					
事業概要図	<p>一般国道4号 氏家矢板バイパス L=13.9km</p> <p>対象区間 L=9.3km</p> <p>上阿久津BP L=3.5km (4/4) L=1.1km (4/4) L=3.5km (2/4) 矢板BP L=4.7km (0/4) L=1.1km (2/4)</p> <p>宇都宮市 さくら市 矢板市</p> <p>高根沢町 氏家駅西地区 氏家市街 荒川 矢板バイパス 矢板IC</p> <p>東北自動車道 東北本線 国道橋 荒川橋 高田橋 乙畑交差点 矢板IC</p> <p>至東京 至福島</p> <p>凡例 〰 供用中 〰 再評価箇所 〰 うち供用中</p>					

※ 総費用、総便益とその内訳は、各年次の価額を割引率を用いて基準年の価値に換算し累計したものの。